

平成30年度

研究調査プロジェクト報告

ここでは、(公財)国際交通安全学会 (IATSS) が平成30年度に実施した研究調査プロジェクトのうち、12本について概要を報告します。

この他に、IATSS 研究調査活動への最新基礎情報の提供等を目的とした海外調査プロジェクト (1830) と、平成29年度に実施した研究調査プロジェクトの中から著しい成果の認められたものに対し、国際的な会議等での発表機会を設けることを目的とした国際発表プロジェクト (1870) 「カンボジアにおけるクロスセクター連携を通じた交通安全教育の実施」を実施しました。

凡例

プロジェクト番号

プロジェクト名

プロジェクトの概要

◎: プロジェクトリーダー

*: 特別研究員

** : 共同研究者、研究協力者、オブザーバー

(所属は当時)

創 50 戦略プロジェクト : 1801C

国際比較：道路交通安全の目標設定と交通文化 — 道路交通安全技術・制度・文化に関する国際比較研究 —

本プロジェクトは、世界各国における道路交通安全の目標値やその設定に関する地域的差異の由来を客観的に認識し、これらを体系的に理解するために必要となる基礎情報を調査分析するものである。特に、交通安全に関わる道路交通技術と各種政策、およびその背景となる交通安全意識に着目する。

本年度 (第3年度) は、昨年度に引き続き、経済状況や交通文化の異なる6カ国を対象として、現地の研究者や行政機関の協力を得つつ、交通安全に対する態度や価値観を測定する Web アンケート調査を実施し、昨年度調査を完了した3カ国を加えて、得られた結果の国際比較分析を行った。また、これらの対象国のうち、エジプトにて現地調査を行い、行政機関・研究機関において交通安全政策や制度等に関するインタビューを行うとともに、交通実態調査を実施することで、交通事故削減目標設定や交通実態、交通文化の理解を深めるための情報収集を行った。そして、昨年度までに現地調査を実施した対象国 (カタール / UAE / イタリア) に日本とエジプトを加えた計5カ国については、これらの結果を包括的に捉え、各国における交通安全政策と、その背景にあるインフラ整備水準、交通安全教育、交通安全意識などとの関係について分析を行い、とりまとめた。

- ◎中村英樹 (IATSS 会員 / 名古屋大学)
- 鈴木弘司 (IATSS 会員 / 名古屋工業大学)
- 谷川 武 (IATSS 会員 / 順天堂大学)
- 堀口良太 (IATSS 会員 / ㈱アイ・トランスポート・ラボ)
- 森本章倫 (IATSS 会員 / 早稲田大学)
- 吉田長裕 (IATSS 会員 / 大阪市立大学)
- 井上勇一* (IATSS 顧問 / 東京都市大学)
- 橋本綱太郎* (IATSS 顧問 / ㈱NIPPO)
- 康 楠* (東京理科大学)
- 後藤 梓* (国土技術政策総合研究所)
- 塩見康博* (立命館大学)
- 鈴木一史* (群馬工業高等専門学校)
- 中井 宏* (大阪大学)
- 宮坂優斗* (内閣府)
- Ghassan Abu-Lebdeh* (American University of Sharjah, UAE)
- Shawky Mohamed Ahmed* (Ain Shams University, Egypt)
- Wael K. M. Alhajyaseen* (Qatar University, Qatar)
- Keshuang Tang* (Tongji University, P. R. China)
- Edwin Akandwanaho** (名古屋大学)
- Ivy Kristine Toquero** (フィリピン公共事業・道路局)

東南アジアにおける情報共有型交通安全対策スキームの実施支援

本プロジェクトは、鎌ヶ谷市で成功した交通事故、およびヒヤリ体験情報の共有を中核とした交通安全対策スキームを、マレーシア（ペナン）、タイ（スパンブリ・コンケン）の状況に適合させ、現地での自律的運用体制への移行を目指すとともに、データ収集・分析の高度化と知識・経験の国際的共有を目指すものである。今年度活動実績は、以下のとおりである。

[全体] 日本の多数の効果評価結果を実装したデータベースを英語化し、実績が少ない地域においても適切な安全対策を検索・選定すること、および各国の実情を反映したデータの蓄積を可能とした。

[マレーシア] マレーシア科学大学と連携し、対策対象箇所のCCTVデータ分析を共同実施し、有効な

対策案を検討した。また、ヒヤリ体験データの安全運転管理への適用の一步として、現地バス会社の運転手を対象にヒヤリ体験の収集と共有を教育機会とするワークショップを開催した。

[タイ] スパンブリで第3回・4回、コンケンで第2回のワークショップをそれぞれ開催した。昨年度同様、問題箇所の把握と適切な対策の提案、および対策実施箇所の確認を行った。また、これまで蓄積したヒヤリ体験データをもとに、ヒヤリハットの内容を類型化し、どこでどのような危険事象が発生しているのかを把握した。さらに、日常の住民の交通行動を地図上に重ねることにより、危険な横断箇所や逆走区間が生じる原因を明らかにした。

◎赤羽弘和	(IATSS 会員／千葉工業大学)	Mustaqin Bin Alpi *	
福田 敦	(IATSS 会員／日本大学)	(Penang State Secretary Office, Malaysia)	
大口 敬	(IATSS 会員／東京大学)	Nabilah Naharudin *	
小川和久	(IATSS 会員／東北工業大学)	(Universiti Sains Malaysia, Malaysia)	
中村彰宏	(IATSS 会員／横浜市立大学)	Rajendran A/L P. Anthony *	
中村文彦	(IATSS 会員／横浜国立大学)	(City Council of Penang Island, Malaysia)	
高田邦道 *	(IATSS 顧問／日本大学名誉教授)	Shahrel Azmin Suandi *	
松村みち子 *	(IATSS 顧問／タウンクリエイター)	(Universiti Sains Malaysia, Malaysia)	
秋山尚夫 *	(交通運用研究所)	Thaned Sathienam *	(Khon Kaen University, Thailand)
大野優治 *	(交通運用研究所)	Yong Woo Soon *	
奥津健太 *	(日本大学)	(City Council of Penang Island, Malaysia)	
奥山祐輔 *	(R45・日の出自自動車学校)	Zainuddin Bin Mohammad Shariff *	
親松俊彦 *	(株)開発技術コンサルタント)	(City Council of Penang Island, Malaysia)	
小早川悟 *	(日本大学)	完山洋平 * *	((独) 国際協力機構)
田沢誠也 *	(首都高速道路(株))	熊澤雪絵 * *	((独) 国際協力機構)
西田 泰 *	((公財) 交通事故総合分析センター)	田中顕士郎 * *	((独) 国際協力機構)
Addnan Bin Mohd Razali *		中村謙太郎 * *	(国土交通省)
(City Council of Penang Island, Malaysia)		南部繁樹 * *	(株)トラフィックプラス)
Ahmad Farhan Bin Mohd Sadullah *		福島広志 * *	(国土交通省)
(Universiti Sains Malaysia, Malaysia)		福田トウエンチャイ * *	(ATRANS・日本大学)
Khairur Rahim Bin Ahmad Hilme *		本間智貴 * *	(国土交通省)
(Universiti Sains Malaysia, Malaysia)			

アジアにおける ITS 導入に関する調査 およびガイドライン作成の研究

アジア諸国においては、著しい経済発展とともに、最新のIT技術を導入した高コストパフォーマンスなシステムの導入が行われている。近年、IoTの浸透により、スマホ等のさまざまな情報端末が交通情報収集や情報提供に用いられ、Fintechの台頭により、ITSが官主導の公共事業から民間主導のビジネスモデルへと進化する流れが顕著であることが明らかになった。本研究では、欧米など先進国を調査して国際標準の動向を把握するとともに、アジアの現状を調査して、最適なITSの導入方法を検討することを目的とする。

初年度（平成28年度）は、アジアを主体とした調査を行い、フィリピンにおけるIoTとFintechを融合した信用とモビリティの創造（Global Mobility Service(株)）等の事例研究を行った。第2年度は、欧州から急速に興りつつあるMaaS（Mobility as a Service）について調査研究を行い、わが国およびアジアへの導入可能性について考察した。最終年度の本年度は、これまでの成果をもとに、台北において国立台湾大学とシンポジウムを共催した。

◎上條俊介	(IATSS 会員／東京大学)
呉 景龍	(IATSS 会員／岡山大学)
土井健司	(IATSS 会員／大阪大学)
中村文彦	(IATSS 会員／横浜国立大学)
福田 敦	(IATSS 会員／日本大学)
太田勝敏*	(IATSS 顧問／東京大学名誉教授)
長谷川孝明*	(IATSS 顧問／埼玉大学)
池田裕二*	(国土技術政策総合研究所)
伊丹 誠*	(東京理科大学)
岩里泰幸*	(国土技術政策総合研究所)
尾崎晴男*	(東洋大学)
坂井康一*	(東京大学)
徳増 健*	(阪神高速道路(株))
中島徳至*	(Global Mobility Service(株))
牧野浩志*	(国土交通省)

都市の文化的創造的機能を支える公共交通の役割

未来の都市のあり方を考えるにあたり、都市はサステイナブルであるだけでなく、クリエイティブでもあるべきと考えられる。すなわち、文化的かつ創造的な機能・活動の集積の重要性は大きい。本研究は、それらから派生する交通需要の受け皿として、あるいは、それらの活動を誘引・誘導する仕掛けとしての公共交通の、これまでの、そしてこれからの役割を明らかにすることを目的とする。

今年度は、ミュージカル等音楽関連の活動を取り上げ、それらの活動が活発な海外の都市における、そうした活動と都市公共交通の関連性を明らかにするため、ヒアリング、ニューヨークとロンドンでの現地調査（公共交通・都市計画・劇場の関係者へのヒアリング）を行った。また、人々の余暇活動に関する意識や行動に関するWeb調査を実施した他、関連文献整理を通して論点を整理した。

調査を通してTheater都市という切り口での試論を行い、都市の本来のかたちに戻り、公共交通の議論を再整理する意義も、ある程度、見えてきた。将来の都市のかたち、つくりこみ方の見直し、そもそもの公共交通、および支える交通（アクセス交通や歩行空間）の考え方の見直しの議論を深めていくことが、今後の課題である。

◎中村文彦	(IATSS 会員／横浜国立大学)
白石真澄	(IATSS 会員／関西大学)
土井健司	(IATSS 会員／大阪大学)
藤井 聡	(IATSS 会員／京都大学)
松村みち子*	(IATSS 顧問／タウンクリエイター)
出口 敦*	(東京大学)
馬奈木俊介*	(九州大学)
三浦詩乃*	(横浜国立大学)
中野 卓**	(東京大学)
川端祐一郎**	(京都大学)

自動運転の時代と交通体系：人間、AI、交通社会

自動運転車両が公道を走行する時期が目前に迫っている。自動運転技術には期待が高まる反面、さまざまな懸念も示されている。本プロジェクトでは懸念事項を慎重に検討し、自動運転車と共に暮らす時代の新たな交通体系を多角的に構想し、成果(新道交法の原案等)を社会に公表することで、より安全な交通社会の実現を目指すことを目的とした研究を行う。

一方、「自動運転」にまつわる概念、用語等が多義性を有し、問題点、検討分野も多岐にわたることより、本年度は、超学際的といえる当プロジェクトメンバーの知見の共有化、概念や用語の共通認識を図りながら、国内外の事例をもとに、検討分野について多角的に議論を行った。

[主な論点]

- ・他の車両、歩行者の安全が、現在と同様に配慮、保護されるか？
- ・自動運転車の利用により、人間中心であった交通社会に変化は？
- ・自動運転を実現させるAIと、人間(社会)との関係は？
- ・「自動運転車の社会的受容性 (social acceptance)」とは何か？
- ・自動運転車は、道交法等、現在の制度と適合するのか？

◎今井猛嘉	(IATSS 会員／法政大学)	森本章倫	(IATSS 会員／早稲田大学)
赤羽弘和	(IATSS 会員／千葉工業大学)	宮寄拓郎*	(IATSS 理事／NTT データアイ)
岩貞るみこ	(IATSS 会員／モータージャーナリスト)	鶴賀孝廣*	(IATSS 顧問)
大口 敬	(IATSS 会員／東京大学)	長谷川孝明*	(IATSS 顧問／埼玉大学)
小川和久	(IATSS 会員／東北工業大学)	松村良之*	(IATSS 顧問／北海道大学名誉教授)
上條俊介	(IATSS 会員／東京大学)	矢野雅文*	(IATSS 顧問／東北大学名誉教授)
木林和彦	(IATSS 会員／東京女子医科大学)	横山利夫*	(IATSS 顧問／(株)本田技術研究所)
久保田尚	(IATSS 会員／埼玉大学)	佐藤彰俊*	(株)インターリスク総研)
篠原一光	(IATSS 会員／大阪大学)	佐藤昌之*	(ITS Japan)
菅沼直樹	(IATSS 会員／金沢大学)	清水和夫*	(国際モータージャーナリスト)
杉本洋一	(IATSS 会員／(株)本田技術研究所)	三浦清洋*	((公社)日本交通計画協会)
鈴木弘司	(IATSS 会員／名古屋工業大学)	ルブルトン カロリーヌ*	(法政大学)
田久保宣晃	(IATSS 会員／科学警察研究所)	石附 弘**	(IATSS 評議員)
土井健司	(IATSS 会員／大阪大学)	上原雄二郎**	(警察庁)
中尾田隆	(IATSS 会員／東京桜田法律事務所)	垣見直彦**	(経済産業省)
中村彰宏	(IATSS 会員／横浜市立大学)	杉 俊弘**	(警察庁)
平岡敏洋	(IATSS 会員／名古屋大学)	間瀬智哉**	(経済産業省)
福田 敦	(IATSS 会員／日本大学)	諸隈繁浩**	(内閣官房)

児童生徒等に対する効果的な交通安全教育を普及させるために何が必要か ～教育普及スキームの構築研究～

本研究の目的は、児童生徒等への効果的な交通安全教育を普及させるための要件を明確にし、教育普及スキームを構築することである。本年度は、小学生・中学生・高校生を対象に、交通安全マップづくりなどの教育実践等を通して、普及スキームの4構成要素、①魅力ある教育プログラム、②エビデンス、③教材・評価ツール、④教育支援に関する基礎資料を収集した。

主な調査結果は次の通りである。

- ①教育自体が興味深いものであれば、子どもは自ずと主体的に学習しようとする。
- ②子どもが意欲を持って学ぼうとする教育活動は、教員等の関係者の関心も高めるため、そのことが普及促進の原動力になり得る。
- ③子どもが実際に通行している交差点の画像を子ども主観の角度で提示することで、横断時の確認行動が促される。
- ④学校教員は、教育実践の初歩的な段階で悩む傾向がある一方で、教育成果を実感することで指導意欲を高めるという一面も示す。
- ⑤同じ交通問題を抱える諸外国と、教育開発の海外連携を推進できる可能性がある。

今後、普及スキーム構築への道筋をより明確にし、その成果を国内外で共有していきたい。

-
- ◎小川和久 (IATSS 会員／東北工業大学)
 岡村和子* (科学警察研究所)
 奥山祐輔* (R45・日の出自動車学校)
 加藤麻樹* (早稲田大学)
 神田直弥* (東北公益文科大学)
 菊池 輝* (東北工業大学)
 中井 宏* (大阪大学)
 名古屋武一* (㈱ムジコ・クリエイト)
 平田大輔* (㈱ムジコ・クリエイト)
 吉門直子* (文部科学省)
 小林療平** (東北工業大学)

健康起因事故防止のための実証的研究 と防止対策の普及啓発に関する研究

近年、健康障害が事故の原因である重大な交通事故が増加しており、健康起因事故防止は、交通事故対策の重要な課題である。

本プロジェクトでは、職業運転者を対象に、視野スクリーニング検査、ならびに花粉症に関連する眠気や睡眠時無呼吸症候群 (SAS) の問診を実施し、これらの健康障害に対する対策法の確立と普及啓発を行うことを目的とした。

平成30年度は、2,113人の職業運転者を対象に、視野欠損の簡易スクリーニングツールであるクロックチャート、ならびに花粉症に関連する眠気やSASに関する質問票を用いて調査を実施した結果、以下の点を明らかにした。

- ①日中の眠気は交通事故と有意な関連。
- ②花粉症治療薬で副作用による眠気を起こしづらい薬があることを知らない場合、副作用の眠気により治療を中止する傾向があった。
- ③クロックチャートの所見とびっくり箱現象を組み合わせた時、両方の所見がない者に比べ、両方の所見がある者では、有意に交通事故の割合が高かった。

-
- ◎谷川 武 (IATSS 会員／順天堂大学)
 大口 敬 (IATSS 会員／東京大学)
 太田和博 (IATSS 会員／専修大学)
 小竹元基 (IATSS 会員／東京大学)
 高橋正也 (IATSS 会員／(独)労働安全衛生総合研究所)
 浅野水辺* (愛媛大学)
 木村真奈美* (順天堂大学)
 国松志保* (東北大学)
 佐藤准子* (順天堂大学)
 白濱龍太郎* (順天堂大学)
 千葉伸太郎* (東京慈恵会医科大学)
 友岡清秀* (順天堂大学)
 和田裕雄* (順天堂大学)
 今井雄也** (順天堂大学)
 崎山紀子** (東京医療保健大学)
 鈴木洋平** (順天堂大学)
 嶽山英佑** (順天堂大学)
 田島朋知** (順天堂大学)
 田中恵子** (順天堂大学)
 趙 暁旭** (順天堂大学)
 村上 歩** (順天堂大学)
 山戸健太郎** (順天堂大学)
 青木小太郎** (警察庁)
 川村和久** (国土交通省)
 関本将司** (警察庁)
 堀井達也** (警察庁)

通学路 Vision Zero—通学路総合交通マネジメント普及に向けた発信活動

究極的に目指すべき「交通事故死者ゼロ」を、まず通学路から実現するための具体的な仕組みとして、ライジングボラードなどのデバイスを活用した新たな取り組み「通学路総合交通安全マネジメント」を提唱し、2017年度までの3年間で、新潟市と浦添市での試行を踏まえた上で、ガイドラインを作成した。本研究では、その取り組みを、さらに全国の通学路に普及させるきっかけをつくることを目的とした。

①通学路総合交通マネジメントの「手引き」の発行

2017年度までに作成したガイドラインは、主に道路交通の専門家向けのものであり、取り組み開始後

の活用を想定している。今年度作成した「手引き」は、主に学校関係者やPTA、さらに児童生徒などの道路交通の専門家以外を対象としたもので、この取り組みを始めるきっかけとなることを期待するものである。従って、イラストなどを多用し、専門家以外でもわかりやすいものとした。

②シンポジウムの開催

「手引き」およびガイドラインを用い、また、新潟市や浦添市での活動事例を紹介し、できるだけ多くの学校で、この取り組みが始まることを目的とするシンポジウムを開催した。

◎久保田尚	(IATSS 会員／埼玉大学)	菊池雅彦*	(復興省)
今井猛嘉	(IATSS 会員／法政大学)	久野譜也*	(筑波大学)
岩貞るみこ	(IATSS 会員／モータージャーナリスト)	小嶋 文*	(埼玉大学)
太田和博	(IATSS 会員／専修大学)	酒井洋一*	(国土交通省)
小川和久	(IATSS 会員／東北工業大学)	坂庭宏樹*	(新潟市)
森本章倫	(IATSS 会員／早稲田大学)	佐々木政雄*	(㈱アトリエ 74 建築都市計画研究所)
蓮花一己*	(IATSS 理事／帝塚山大学)	高瀬一希*	(㈱国際開発コンサルタンツ)
橋本鋼太郎*	(IATSS 顧問／㈱ NIPPO)	竹本由美*	(一財) 国土技術研究センター)
長谷川孝明*	(IATSS 顧問／埼玉大学)	知念悠次*	(浦添市)
新井洋史*	(警察庁)	西澤暢茂*	(新潟市)
池田博俊*	(元 新潟市)	萩田賢司*	(科学警察研究所)
五十川泰史*	(国土交通省)	萩原 岳*	((公社) 日本交通計画協会)
伊藤将司*	(㈱福山コンサルタント)	林 隆史*	(元 (一財) 国土技術研究センター)
梅野秀明*	(警察庁)	松原悟朗*	(㈱国際開発コンサルタンツ)
上矢雅史*	(文部科学省)	望月拓郎*	(内閣府)
大榎 謙*	(国土交通省)	山中 亮*	(㈱中央建設コンサルタント)
大橋幸子*	(国土技術政策総合研究所)	吉門直子*	(文部科学省)
越智健吾*	(国土交通省)	川松祐太**	(国土技術政策総合研究所)
神谷大介*	(琉球大学)	白井克哉**	(一財) 国土技術研究センター)

カンボジアにおけるクロスセクター連携を通じた交通安全教育の実施

本プロジェクトは、平成27年度～平成29年度（3年間）に実施した研究調査プロジェクトの成果を踏まえた社会貢献プロジェクトである。これまでの3年間で連携を構築したCJCC（カンボジア日本人材開発センター）、IATSSフォーラムカンボジア同窓会、JICA プノンペン事務所、N.C.X Co., Ltd. (Safety Riding Center)、(一社) Social Compassの協力のもと、下記の活動を実施した。

- ① プノンペンの若者（高校生、大学生）を対象にした座学と実技の二輪車安全ワークショップの実施、および事前事後のアンケート調査による効果評価。
- ② Safety Riding Centerのインストラクターを対象とした実技、および指導のポイントの講習。
- ③ 広くカンボジア都市部の高校・大学等で若者に対する交通安全教育を実施する際、実際に利用できる啓発ビデオ教材の作成。

なお、完成したビデオについては、上記連携先およびカンボジア公共事業・交通省、カンボジア教育・青年・スポーツ省のホームページにリンクを貼っていただくなど、普及のための協力を要請した。

-
- ◎北村友人 (IATSS 会員／東京大学)
 - 土井健司 (IATSS 会員／大阪大学)
 - 吉田長裕 (IATSS 会員／大阪市立大学)
 - 今井一登* (大阪市立大学)
 - 小柳俊樹* (大阪市立大学)
 - 中原かゆき* (東京大学)
 - 林真樹子* (聖心女子大学)
 - 矢野円郁* (神戸女学院大学)
 - 山口直範* (大阪国際大学)

インクルーシブサイクリングの手引きを活用した障がい者自転車教育プログラムの地域展開

インクルーシブサイクリングとは、主に障がい者の自転車利用に関わるさまざまな障壁を取り除き、障がいの有無に関わらず、自転車を利用することで、社会的孤立や交通に関わる問題を防ぐことを目的とした活動である。この背景には、障がいに対する誤った認識と、国内に自転車の交通教育、安全教育の体系化が確立していないことである。

そこで、子どもの発達段階に応じた自転車教育、障がい者のための自転車教育について、国内外の動向をレビューした。次に、国内で障がい者の自転車利用を支援する団体と協力し、障がい児向けの実技系自転車教育プログラムを構築し、その経験を手引きとしてまとめた。

本年度は、社会貢献プロジェクトとして、その手引きを活用し、①英国ロンドンで開催したワークショップで課題や到達点を共有し、②養護学校において、ペダルなし自転車を用いてプログラムを試行した。

その結果、奈良県立奈良西養護学校では、参加した小学部生徒にさまざまな変化をもたらし、子どもの発達を促す多様な効果を期待できることがわかった。これを踏まえ、学校では教師が新たなプログラムを構築し、教育課程の一部として継続して取り組むことになった。

-
- ◎吉田長裕 (IATSS 会員／大阪市立大学)
 - 松村みち子* (IATSS 顧問／タウンクリエイター)
 - 小西琢也* (大阪市立大学)
 - 藤江 徹* ((公財) 公害地域再生センター)
 - 藤山 拓* (UCL)
 - 中野友香子* (科学警察研究所)
 - 柳原崇男* (近畿大学)
 - 鎗山善理子* ((公財) 公害地域再生センター)
 - Divera Twisk* (オランダ交通安全研究所)
 - 川地遼佳** (大阪市立大学)

インド小規模都市群における地域に根ざした計画・デザインの提言と社会実装の取り組みー持続可能な開発目標 (SDGs) への貢献を視野にー

2015年に採択された持続可能な開発目標 (SDGs) では、交通事故死者数の半減や大気汚染レベルの低減など交通に関する多くのターゲットが設定された。しかし、その実現を確かなものにするためには、各都市における具体的なアクションに落とし込む必要がある。

本プロジェクトでは、交通分野におけるSDGsのターゲットである交通事故削減、持続可能な交通へのアクセス、大気環境の改善をインド小規模都市群において具体的に達成する方法を、インド工科大学のコミュニティに根ざした取り組みと、当学会の領域横断的な知見をフル活用することによって提案し、さらに、具体的な取り組みの「実施」につなげることを目的とする。

2年目である本年度は、パティアラ市／パンジャブ州、ブランドシャル市／ウッタラプラデシュ州、ナイタル市／ウッタラーカンド州において、道路交通安全監査の実施、街路デザインガイドラインの作成・提案、ラウンドアバウトの改善などの社会実験を行った。また、大気汚染物質の長期間にわたる計測も実施した。さらに、多くのパブリックエキシビジョンを開催し、SDGsに対する住民の啓発活動も行った。

◎福田 敦 (IATSS 会員／日本大学)
 上條俊介 (IATSS 会員／東京大学)
 北村友人 (IATSS 会員／東京大学)
 土井健司 (IATSS 会員／大阪大学)
 吉田長裕 (IATSS 会員／大阪市立大学)
 菊池浩紀* (日本大学)
 小早川悟* (日本大学)
 Dinesh Mohan* (IITD・Shiv Nadar University, India)
 Geetam Tiwari* (IITD, India)
 Girish Agrawal* (Jindal Global University, India)
 Sudipto Mukherjee* (IITD, India)

二輪車文化を活かし、安全を基本とした ASEAN 地域の持続可能な交通まちづくりの提案

ASEAN地域の多くの国では、自家用車の普及後も、自動二輪は利便性、快適性の高さから、今もなお生活の足として重用されている。一方で全交通死亡事故に対する自動二輪関連事故は、タイ74%、カンボジア73%、マレーシア62%と大きな割合を占めている。本プロジェクトでは、自動二輪の道路空間における位置づけや優先性(弱者-強者関係)を再考して、安全を基本とした持続可能な交通まちづくりの提案を目的とする。

初年度である本年度は、交通事故死亡率が世界で最も高いタイを対象に事故データの収集、事故状況の可視化、および現地では着用されているヘルメットの安全性の検証を行い、自動二輪の安全に関わる状況を把握した。

さらに、Web上で訪日・滞日外国人への意識・行動調査を行い、母国での徒歩経験の乏しさによる「歩行者が交通弱者である」との認識の低さ、およびそれに伴う安全意識の低さが、自動二輪利用率の高い国・地域において顕著であることを示した。この結果を受け、自動二輪車から歩行を伴う公共交通やバトランジットへの利用転換を促すための、安全性、ウォークアビリティの概念を取り入れたMaaS-LC (Local Context) を試作し、タイのプーケット島でのモニター調査を行った。

◎土井健司 (IATSS 会員／大阪大学)
 上條俊介 (IATSS 会員／東京大学)
 北村友人 (IATSS 会員／東京大学)
 高橋正也 (IATSS 会員／(独)労働安全衛生総合研究所)
 吉田長裕 (IATSS 会員／大阪市立大学)
 井上勇一* (IATSS 顧問／東京都市大学)
 長谷川孝明* (IATSS 顧問／埼玉大学)
 猪井博登* (富山大学)
 紀伊雅敦* (香川大学)
 山口直範* (大阪国際大学)
 葉 健人* (大阪大学)
 Hsin-Li Chang* (National Chiao Tung University, Taiwan)
 Paramet Luathep* (Prince of Songkla University, Thailand)
 Sippakorn Khaimook* (大阪大学)
 Yi-Shih Chung* (National Chiao Tung University, Taiwan)
 Yu-Chin Chiou* (National Chiao Tung University, Taiwan)